



フリースタイル 74kg 級  
高谷 大地 2等陸尉

フリースタイル 125kg 級  
山本 泰輝 2等陸曹

女子フリースタイル 72kg 級  
古市 雅子 3等陸尉

グレコローマン 87kg 級  
角 雅人 3等陸曹

フリースタイル 86kg 級  
奥井 眞生 3等陸尉

## 令和4年度全日本選抜レスリング選手権大会 自衛隊体育学校レスリング班

# 5階級制覇

令和4年6月16日から19日の間、東京都世田谷区駒沢オリンピック記念公園体育館において、令和4年度「明治杯 全日本選抜レスリング選手権大会」が行われた。本大会は2022年世界選手権代表選考も兼ねており、昨年12月に行われた全日本選手権大会と今大会の優勝者が異なった場合、同日の決勝戦終了後に両優勝者による代表決定プレーオフが行なわれた。

自衛隊体育学校からは高谷大地2等陸尉以下24名が出場し、5階級で優勝、5名が世界選手権代表を勝ち取った。



大会2日目、フリースタイル74kg級に高谷2尉が出場した。

高谷2尉は初戦（準々決勝）をポイント4-0で勝利すると、続く準決勝もポイント6-0と相手に1ポイントも与えずに決勝へと駒を進めた。迎えた決勝の相手は木下貴輪選手（クリナップ）。試合開始直後から果敢に攻め、3ポイント先制するも2ポイントを返され接戦となった。しかし最後まで攻めの姿勢を貫いた高谷2尉が試合終了間際にさらに2ポイントを奪い、ポイント5-2で2階級通算2度目の優勝を飾った。高谷2尉は昨年12月に行われた全日本選手権でも優勝しているため、世界選手権の代表に内定した。

試合後、高谷2尉は「多大なサポートのおかげで優勝することができ、感謝している。まだまだ成長していくので、よろしくお祈りします。」と優勝後の心境を語り、世界選手権に向けて「華の階級といわれる74kg級でどれだけ戦えるのか、

自分はどのくらいのレベルなのかを確かめられる非常に楽しみな大会。優勝を目指してひたすら練習に励みたい。応援よろしくお祈りします。」と抱負を述べた。

フリースタイル125kg級に出場した山本泰輝2等陸曹は4連覇をかけて今大会に臨んだ。初戦（準決勝）では試合開始からわずか27秒でテクニカルフォール（規定の得点差による勝利。フリースタイルでは10ポイント差以上。）によって勝利し、圧倒的な強さで決勝進出を決めた。

決勝は二ノ宮寛斗選手（不二精機）との一戦。序盤からお互い一步も引かない攻防戦を繰り広げ、なかなかポイントを奪うことができない展開が続いたが、最後まで積極的に攻めに徹した山本2曹がポイント2-1の大接戦を競り勝った。これにより4度目となる世界選手権代表の座を手に入れた。

山本2曹は「今大会では優勝することはできたが、試合内容はよくなかった。世界選手権に向けて一からレスリングを強化し、納得のいく試合ができるようにしたい。」と語った。



天皇杯・明治杯を制して  
**世界選手権代表内定**



グレコローマンスタイル 87kg 級に出場した角雅人3等陸曹は、初戦（準々決勝）・準決勝の2試合ともにポイント 10-0 のテクニカルフォール（グレコローマンスタイルでは8ポイント差以上）によって勝利し、決勝へ進んだ。

決勝は阪部創2等陸曹との同門対決となった。互いに手の内を知り尽くしている者同士、一步も譲らない攻防戦のなか阪部2曹に指導（攻撃に消極的）が入り、角3曹が1ポイントを取った。またグレコローマンスタイルでは指導を受けた者が不利な体勢から試合を再開するルールとなっているため、この好機を逃さず角3曹はさらに2ポイントを取った。角3曹にも指導が入り1ポイントを返されるも、ポイント5-1で同門対決を制し3度目の優勝と世界選手権の代表を勝ち取った。

角3曹は、試合を終えて「日頃から意識して練習していた部分が出せたところはよかった。今回の試合で出た悪いところをしっかりと反省して、世界選手権ではひとつでも多く勝てるように頑張ります。」と決意を新たにされた。

大会3日目、女子フリースタイル 72kg 級に 2021 世界選手権の同階級金メダリストの古市雅子3等陸尉が出場した。

古市3尉は初戦（準々決勝）を9-0で勝利し、続く準決勝は相手選手の負傷棄権により決勝進出を決めた。迎えた決勝は新倉すみれ選手（神奈川大学）との一戦。昨年の同大会決勝と同じ顔合わせとなった。試合は序盤から積極的に攻めた古市3尉が2ポイントを取っても2ポイントを返され、ポイント2-2で第2ラウンドへ。さらに2ポイントを取っても4ポイントを返される劣勢の展開となったが、最後まで粘り強く攻め続けた古市3尉が試合時間残り2秒で逆転を果たし、2年連続3度目の優勝を飾った。その後に行われたプレーオフで新倉選手と再戦し、見事勝利を取って2年連続で世界選手権代表に内定した。

古市3尉は「決勝は苦しかったが、最後に力を振り絞って勝つことができプレーオフにつながられたこと、そして勝つことができよかった。今回の反省を世界選手権につなげていきたい。」と意欲を示した。

明治杯・プレーオフを制して  
**世界選手権代表内定**



フリースタイル 86kg 級に奥井眞生3等陸尉が出場した。奥井3尉は初戦（準々決勝）を10-0のテクニカルフォールで勝利すると、準決勝ではフォール勝ちで危なげなく決勝に駒を進めた。迎えた決勝の相手は白井勝太選手（クインテット）。奥井3尉は果敢に攻めるもなかなかポイントにつながらず、互いに指導を受けながらの試合となったが、奥井3尉が2-1で競り勝ち74kg級と合わせて3度目の栄冠を手にした。

しかし同日に行われた世界選手権代表決定プレーオフではポイント1-2と惜敗し、代表権獲得はならなかった。

奥井3尉は、試合を振り返り「ある程度の評価はしている。膝の怪我で引退も考えたが、たくさんの人に支えられてここまでやってこれたので恩返しがしたいと思った。この結果を受けとめ、体・技術・心の準備をして、国内大会を勝ちきりパリ五輪出場を目指したい。」と決意を語った。

怪我を乗り越え  
**2階級制覇**



グレコローマンスタイル 97kg 級に出場した鶴田峻大3等陸曹は初戦（準々決勝）・準決勝を相手にポイントを与えずに勝利し、決勝進出を決めた。決勝戦では仲里優力選手（佐賀県スポーツ協会）に対し3ポイント先取するも、直後に返されポイント3-3の同点ながらラストポイントをとった仲里選手に敗戦を喫した。決勝戦の約1時間後に行われたプレーオフでは3ポイントを取った仲里選手に敗戦を喫した。決勝戦の約1時間後に行われたプレーオフでは3ポイントを取った仲里選手に敗戦を喫した。決勝戦の約1時間後に行われたプレーオフでは3ポイントを取った仲里選手に敗戦を喫した。

鶴田3曹は「あまり満足できる試合内容ではなかったが、プレーオフでは取るべきところでポイントを取り、守るべきところでしっかり守れたのでよかった。反省点が多く見つかったので、それを活かし世界選手権ではパリ五輪に向けて自信がもてるような試合をしたい。」と抱負を語った。

天皇杯・プレーオフを制して  
**世界選手権代表内定**



**総合成績（メダリストのみ）**

**フリースタイル**

- 🥇 **優勝** 74kg 高谷大地 2等陸尉（京都府）
- 🥈 **優勝** 86kg 奥井眞生 3等陸尉（和歌山県）
- 🥉 **優勝** 125kg 山本泰輝 2等陸曹（静岡県）
- 🥈 **第2位** 61kg 小川航大 2等陸曹（青森県）
- 🥉 **第3位** 57kg 藤田雄大 2等陸曹（三重県）
- 🥉 **第3位** 79kg 村山貴裕 3等陸曹（青森県）
- 🥉 **第3位** 97kg 園田 平 2等陸曹（滋賀県）

**グレコローマンスタイル**

- 🥇 **優勝** 87kg 角 雅人 3等陸曹（佐賀県）
- 🥈 **第2位** 72kg 堀江耐志 2等陸曹（和歌山県）
- 🥈 **第2位** 87kg 阪部 創 2等陸曹（和歌山県）
- 🥈 **第2位** 97kg 鶴田峻大 3等陸曹（長崎県）
- 🥉 **第3位** 67kg 清水賢亮 2等陸曹（北海道）

**女子フリースタイル**

- 🥇 **優勝** 72kg 古市雅子 3等陸尉（熊本県）
- 🥈 **第2位** 53kg 奥野春菜 2等陸曹（三重県）
- 🥈 **第2位** 65kg 今井海優 3等陸曹（京都府）
- 🥉 **第3位** 59kg 徳原姫花 陸士長（高知県）

